

サービスマーケティング活動で自己形成

活動先：南知多町立師崎小学校、山口県美郷の丘
クラス：岡多枝子先生

私は、4月からサービスマーケティング・教職ゼミに所属することになり、今まで身近に感じていた「ボランティア」から新たに耳にした「サービスマーケティング」というキーワードを軸にして学び始めた。サービスマーケティング活動を通して、自分のしたいことや関心があるもの、学生生活の送り方、社会の中の学生としての役割などを改めて見つめなおすことができ、自分自身を新たに作り出すきっかけを得ることができた。

4月の最初の学外活動としては、日本福祉大学附属高等学校の授業を拝見させて頂き、教育指導や取り組みなどについて学んだが、サービスマーケティング活動にまでは至らなかった。しかし、生徒の発言をこぼさずにしっかりキャッチするという教師の指導技術などを実感することができた。教師が生徒一人ひとりの発言をこぼさずにキャッチすることで、学級の中に良い雰囲気形成され、クラス全体がまとまるのではないかと感じた。また、5月以降からは、「通常学校の特別支援学級」をテーマに南知多町立師崎小学校へ訪問させて頂き、プール掃除や運動会の補助活動を行った。これらの活動を通して、特別支援学級に通う児童に対して、学校全体としては特別な取り組みや配慮はされていないように感じた。先生方は、他の児童と同様に接しているという感じであった。しかし、先生からお話を聞いてみると、学力の遅れも見られるため、教育内容において配慮や工夫を行っているということであった。特別支援学級での活動は機械の組み立て、組はずしや花壇の手入れなどの作業活動が主である。他の児童と同様に接している光景は、特別な扱いをしているということのを他の児童に感じさせないようにするための配慮、そして、障害児自身にも、社会性や人間性を身につけさせるための工夫出会ったのではないかと考える。また、今年から師崎小学校では、地域の町民体育大会と小学校の運動会を同日に行うこととなり、両方に参加させて頂いた。運動会では、高学年の児童に準備を手伝わせており、自分たちの運動会を自分たちで作る（作らせる）というような動きがみられた。また、続いて行われた町民体育大会では、地域の方々と小学生、学校とのつながりの深さを感じた。学校と地域が連携してまちづくり、そして教育を行っていくという雰囲気があった。師崎小学校でのこれらの活動は、まだまだサービスマーケティングとして充分ではないように感じた。これから先、今現在福祉について学んでいる大学生が「福祉」を師崎小学校の子どもたちに教え、共に学ぶことができると考えている。

また、私は師崎小学校での活動とは別に、山口県的美郷の丘土曜日曜学校で行われたキャンプ活動をしてきた。子どもたちとともに集団生活を通して規律、協調、奉仕を学び、将来への希望と夢を膨らませようという、「山口県少年少女の船」での日本一周の活動に参加したことが始まりである。自分に自信がなく、将来についても不安で、何をしたらいいのかわからないときにこの活動に出会ったことがきっかけである。小学生から中学生を対象として、大学生が指導員となってリーダーシップを発揮しながら活動するものである。

スケジュールや行動の仕方、過ごし方など指導員が考えを出し合いながら計画し、指導した。また、子どもの抱える様々な問題や課題を指導員全員で共有し、解決に向けて提案・実践をすることもあった。実践を通して、子どもだけでなく、指導員自身もその実践から学び、自己を形成していく一つの手段にもなったと考える。船の旅だけではなく、美郷の丘土曜日曜学校でのキャンプ活動を通して特に感じることは、人前へ出て発表する機会が非常に多かったため、それが経験と自信になり、大学や大学外での発表や発言に活かすことができていることである。もちろんまだまだ至らない点が多いが、活動する以前よりは自信がついた。また、子どもたちの手本となり、指導員となることで、子どもたちを引っ張っていくというリーダーシップの力がより一層強まったように感じる。子どもや子どもの親、共に活動する学生と関わることで、社会における家庭問題や教育問題などを実際に見ることができた。今まで他人事のように社会問題を眺めていたけれど、今動かなければならないのは学生であると考え。それは、社会に新たに出ていくのは子どもでもなく、大人でもなく、学生であるからだ。したがって、学生はもっとリーダーシップを発揮し、社会にしっかり目を向け、問題解決や社会の発展に対してもっと動かなければならないと考える。

山口県での活動を通していくつかの社会問題を発見することができた。まずは、「母子家庭・父子家庭の増加」である。土曜日曜学校のキャンプにくる子どものほとんどが母子家庭、あるいは父子家庭であり、土日も働かなければならないという親が子どもをこうした場所に預けに来るケースも少なくはないのではないかと感じた。したがって、母子家庭や父子家庭の親にとって、土曜日曜学校や学童などの場所は非常に必要であるのではないかと考える。しかし、自分の子どもを他人に預けるということを安心して行うことができなくなった現代の物騒な世の中では、なかなか参加することができないという家庭もあるのではないかと考える。したがって、土曜日曜学校や学童のような場所は、地域全体で取り組むべきであると考え。少子高齢化になった今だからこそ、地域が手を取り合って助け合っていくことができるし、していくべきではないかと考える。美郷の丘土曜日曜学校には、県中のいたるところから子どもたちが参加してくるが、それは同時に、他の市町村ではこのような場所・環境が不十分であるのではないかとこの疑問も持った。そして、このような問題は山口県に限らず、他の都道府県にもあてはまるのではないかと考える。

また、子どもたちのひきこもり化も見えてきた。ゲームやインターネットの普及に伴って、子どもたちが屋外よりも室内でこもって遊ぶ時間が多いということがわかった。また、ゲームでも大人数で行うものはもちろんであるが、一人で行うものも多くあり、一人で部屋にこもって遊ぶという現状もあるようだ。ゲームが全て悪いというわけではないが、ゲームによってコミュニケーション能力が低下することもあると考える。このように大半の遊びがゲームになってしまっている子どもたちが美郷の丘で自然に触れながら自由に遊ぶという環境は非常に大事なものであり、この環境を守り続け、より一層良い環境・居場所・学びの場・発見の場・自己形成の場をつくるのが課題の一つであると考え。これらの課題を発信し、解決に導いていくことが、サービスラーニング活動にとって非常に重要で、必要なことであると考え。